



3歳以上の異年齢保育を始めて3ヶ月が経ち、先月から保育参加が始まりました。保護者の皆さんが実際に保育参加を通して子どもたちの姿をどのようにご覧になっているか、また、クラスの子どもの様子を縦割りクラスの保育日誌から紹介します。

年少児(3歳児)の保護者の感想から

異年齢クラスになって初めての保育参加でした。去年と比べ、更に成長した息子を見ることができ、とても嬉しかったです。朝、登園してからの支度もきちんと覚えていて、決まった所にスムーズに準備している姿やお手伝いを率先してやっている姿とても立派でした。お散歩の時、年長のお友達が「道路側を年長が歩いて、僕たちが年少の子を守るんだよ。」と教えてくれました。その言葉にとても感動しました。来年、再来年と我が子が先輩になった時、同じように年下の子を気遣う子になってくれたら嬉しいです。いろいろな体験をさせてくれる保育園や先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

年長児(5歳児)の保護者の感想から

今年で最後の保育参加は、縦割り保育ということでいつもと違う娘やお友達の様子を見ることができました。年長さんという立場で、年少さん、年中さんを引っ張っていかうという責任感が出てきたようで、お散歩の時にも年長の子たちは、自分たちより小さなお友達の手をしっかり握り、声を掛け合い、本当に子どもたちの大きな成長を見ることができました。楽しい時間をありがとうございました。

縦割りクラスの6月9日の保育日誌から

昨日、年長児が潮干狩りに行き、アサリを取ってきてくれた。そのアサリを使って今日は、クラスの年長児が味噌汁作りをしてくれた。年少、年中の子どもたちは椅子に座り、年長児全員が前に出て作ってくれた。年長の子どもたちも少し緊張している様子であったが、「〇〇入れます」などと、大きな声で手順を説明してくれた。SとKの2人は、アサリの入っているポウルを手を持ちながら、年少、年中の子どもたちに見せてくれた。AとBは、アサリを見ると、「わあー、すごい」と驚き、回りの子も興味津々見入っていた。鍋に水を入れた後、年長の子どもたちが一人ずつアサリを入れていき、カセットコンロに火をつけた。待っている間、年長の子が潮干狩りで楽しかったことや難しかったことを一人ずつ話してくれた。潮干狩りの様子をデジカメの映像を見せて教えてくれた。Rは熊手を使って「こうやって掘ったんだよ」と言って、手振り、身振りで教えてくれた。しばらくすると、アサリの口が開いたので、お酒と味噌を鍋に入れて味付けをしていった。最初、年長の子が順番に味見をしていった。「おいしい」「あまい」などと、楽しそうに味見をした。その後、年少、年中の子どもたちにも味見をさせてくれた。Aの番になると、「アサリ好きなんだ」と言いながら嬉しそうに味見をしていた。全員が味見をし、味噌汁が出来上がった。給食の時間にアサリの味噌汁を食べた。年少の子どもたちは、みんな「おいしい」と言って、あっという間に食べてしまった。普段、好き嫌いの多いKは、給食もあまり食べないが、今日は自分から「アサリの味噌汁をおかわりする」と言って、よく食べていた。おやつの時、年少、年中の子どもたちが「おいしかった」と年長に声をかけていた子もいた。年長の子どもたちも、自分たちで最後まで作ったことで自信につながったと思う。